

会 議 録

1 会議名

令和4年度第11回安塚区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

○自主的審議事項（公開）

（1）住みやすい安塚の在り方について

○その他（公開）

3 開催日時

令和4年12月22日（木）午後6時から午後7時24分まで

4 開催場所

安塚コミュニティプラザ 3階 大会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

・委員：池田裕夫、池田康雄、石田ひとみ、小松光代、新保良一、中村真二、
外立正剛、秦克博、松苗正二、松野修、山岸重正、吉野誠一

・事務局：安塚区総合事務所 小林所長、大島次長、小林市民生活・福祉グループ長（併
教育・文化グループ長）、村松班長

8 発言の内容（要旨）

【大島次長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【松苗正二会長】

- ・挨拶

【大島次長】

本日の会議録の確認は、内規により松苗会長にお願いする。

条例第8条第1項の規定により、松苗会長から議長を務めていただく。

【松苗正二会長】

それでは、次第3自主的審議事項（1）住みやすい安塚の在り方について、から議事を進めていく。

5月に開催した第3回地域協議会において、事務局から地域活性化の方向性の作成に関する説明があった。この地域活性化の方向性の作成と今後進めていく自主的審議事項には関連性があることから、地域活性化の方向性の作成について、本日改めて事務局へ説明をお願いします。

【村松班長】

第3回地域協議会の配付資料に基づき、地域活性化の方向性の作成について、作成目的等を説明。

【松苗正二会長】

事務局から説明があったが、何か質問等あるか。

【吉野誠一委員】

5月の説明の際も疑問に思っていたが、これは自主的審議事項として進めることになるのか。資料では、お願いというふうに表現されているが、ある意味強制に近いのではないか。条例上、市長の附属機関であることから仕方のない部分もあると思うが、会の自主的な運営に対して市が踏み込んでもよいものか、市の考え方を確認したい。

【村松班長】

地域活性化の方向性については、地域自治推進プロジェクトに係る取組の一環として、全28地域自治区で作成することになっている。自主的審議事項と一緒に検討を進める地域自治区もあれば、全く別に検討を進める地域自治区もあると思う。ただ、安塚区の場合は、自主的審議事項の検討がある程度進んでおり、これからまとめていく中で地域活性化の方向性の作成と関連する部分も多いと思われることから、本日改めて説明させていただいた次第である。

【吉野誠一委員】

条例上、地域協議会は市長の附属機関に位置付けられているが、これは諮問ではない。お願いというソフトな表現になっても、自主的に審議してこういうものを作りなさいと強制されているような気がしてしまう。その辺りの考え方を確認したい。

【大島次長】

決して強制するという性格のものではない。市として、これまで地域独自の予算等の検討を進める中で、ビジョンや方向性というようなフレーズが度々登場していたと思う。

安塚区においては、自主的審議事項で検討いただいていることと地域活性化の方向性には共通する部分も多く、自主的審議事項をまとめていく中で結果的に地域活性化の方向性に近いものができあがっていくのではないかと考えている。上越市地域自治区の設置条例に基づくものではないが、現在進めていただいている自主的審議事項とそれほどかけ離れたものではないと考え、このタイミングで改めて説明させていただいた。

【村松班長】

地域活性化の方向性の作成目的について、今一度確認いただきたい。

【吉野誠一委員】

私が聞きたいのはそういうことではなく、条例上、そのように位置づけられている機関に対して、市がここまで踏み込んでよいのかということである。各地域協議会は、それぞれ独自の運営ができるはずであり、お願いというソフトな表現であっても、これは強制に近いことを行っていると思う。その辺りの線引きを確認したかっただけである。

【大島次長】

必ずこれに取り組んでほしいという性格のものではない。市として、地域活動支援事業を終了するにあたって、今後は自主的審議事項にさらに注力いただきたいという考えがはじめにあり、一連の流れの中で、地域のことを考えていくうえでのビジョンや方向性というものが出てきた。自主的審議事項の中で必ずビジョンや方向性を考えていただきたいということではない。

繰り返しになるが、安塚区においては、自主的審議事項で検討を進めていただいている内容と地域活性化の方向性は非常に近いものであると考えている。仮に全く違う内容で自主的審議事項の検討を進めているにも関わらず、地域活性化の方向性を作成してほしいということになれば、話もまた変わってくる。吉野委員のご質問に対して、明確に回答することはできていないと思うが、私どもの考えとしてはこれまで述べたとおりである。

【吉野誠一委員】

承知した。

【松苗正二会長】

ほかに質問等あるか。

【池田裕夫委員】

本日、これまでに作成された5つの地域自治区における地域活性化の方向性が参考資料として配付されている。このようなA4用紙1枚の内容で完成ということか。

【村松班長】

そのとおりである。これが基本的な様式となるので、このような形で作成をお願いしたい。作成後は市ホームページにも掲載され、広く公開される。誰が見ても分かりやすいようにということで、このような様式を定めさせていただいている。

【松苗正二会長】

ほかに質問等あるか。

(質問なし)

質問等なければ、自主的審議事項についての協議を進めていく。

先般、12月6日(火)に小委員会を開催したが、私を含めて3名欠席者がいたため、小委員会終了後に各グループで検討した内容についての報告は行わず、本日の協議会の中で報告することになったと聞いている。Aグループから順番に検討した内容の報告をお願いしたい。

【石田ひとみ副会長】

Aグループでは、人口減少率の鈍化を目的として、これから何をすべきか考えた。まず、今住んでいる私たち自身が住みやすいと思えなければ、先のない地域になってしまい、何も生まれなくなってしまう。安塚区は住みやすい地域である、楽しいことがいっぱいある、自然の恵みがあるというようなことを地元の皆さんに再認識してもらいたい。

アンケート結果から分かったことは、若者から高齢者までリバーサイドロードへの関心が高いということである。現在は荒れてしまっているが、安塚区の誇りであるリバーサイドロードを再生するため、最優先で維持管理に取り組むべきであると考えている。我々の任期は令和6年4月までとなっており、何から着手すべきかを考えると、荒れているリバーサイドロードの整備であり、桜を大事にするとともに歩道や花壇の管理から始めてはどうかという意見にまとまった。子どもから大人まで幅広い人たちの利用を促し、誰もが楽しめる場所としてもう一度活性化させたい。令和6年度予算要求に提案できるよう、検討を進めることができればと思っている。事業の実行者として既存の団体もあるが、新たな組織の立ち上げも含めて、リバーサイドロード再生プロジェクトという形で検討してみてもどうか。人口減少率の鈍化と経済的効果を目標に今ある財産をいかしていく方が現実的であると思う。

【松苗正二会長】

Aグループから報告があったが、Aグループの検討した内容について、何か質問等あるか。

(質問なし)

続いてBグループに報告をお願いします。

【吉野誠一委員】

Bグループでは、目指すべき将来像を話し合い、住みやすい安塚とは即ち民度の高さを実感できる地域であるということを確認した。また、安塚区の課題について、アンケート結果や意見交換会の記録の中からいくつか抽出し、少子高齢化、産業・雇用の創出、コミュニティの再生、自然環境の保全と活用、公共サービスの格差といった点をポイントに挙げた。そして、安塚区の魅力について、同様に意見交換会の記録等から抽出し、豊かな自然、災害がなく安心安全である、寛容にして温厚なまちである、キューピットバレイスキー場やリバーサイドロードなど観光資源がある、子育て・教育環境といった点をポイントに挙げた。

その後、安塚区の将来像をどのようにつくっていくか話し合い、20年後にありたい姿から逆算して、今すべきことを整理するという基本方針に基づき、アンケートや意見交換会で明らかになった課題や政策需要を軸にとりまとめ、人口減少という課題を背景に2045年(令和27年)の人口1,000人を目標にしたいという意見にまとまった。世代ごとに目標を定め、安塚区の魅力を軸に課題解決の方策を整理し、具体的な事業等を策定することとしたいと考えている。また、ビジョン策定に向けたタイムスケジュールをつくるべきという意見もあった。

今年度中に課題や魅力、将来像に関する基本方針を定め、4月以降、具体的な事業の検討を始め、9月には意見書として提出するというスケジュール感を委員全員で共有し、進めていった方がよい。総合事務所やNPO雪のふるさと安塚、雪だるま財団等の実施主体と役割分担を整理することも必要である。検討にあたり、有識者の招聘を考えてはどうかという意見もあった。現在は3グループに分かれて検討しているが、各グループで検討した内容をとりまとめること自体が大変な作業であるため、5、6人程度の小委員会をつくり、全体の地域協議会に向けたたたき台を検討する方法をとってはどうか。場合によっては、全体の地域協議会までに2、3回小委員会を開催することもあり得る。

【松苗正二会長】

Bグループから報告があったが、Bグループの検討した内容について、何か質問等あるか。

(質問なし)

最後にCグループの検討した内容について、私から報告する。Cグループでは、意見

交換会で挙げられた意見を一つの表にまとめ、その内容について分析しながら検討を進めた。全ての内容を説明するのは時間的に難しいため、概要を説明する。

1点目はリバーサイドロードの整備である。ほかのグループの報告にもあったとおり、リバーサイドロードは安塚区の魅力の一つになっているが、現状はあまり整備されておらず、情報発信もなされていない。リバーサイドロード活性化プロジェクトという形で検討を進めてはどうかという意見が挙げられた。冬期間に折れた枝の処理や草刈り、花壇の整備等について、実際に動くことができる人を考えていけば、お金を稼ぐ仕組みができたり、観光資源としてのアピールもできるようになると思う。

2点目は月一祭りである。安塚区の住民は、祭り等のイベントに参加する人が非常に多く、イベントの内容や情報発信の方法を工夫することによって、今以上に地域に賑わいが生まれるのではないかという意見が挙げられた。雪だるま物産館やNPO雪のふるさと安塚が中心になって、月に一度くらいのペースで行う月一祭りを実施してはどうかと考えた。これによって、安塚区に来れば、魅力を感じられるようなイベントを毎月何かやっているというふうに感じてもらうことが可能となり、地域活性化につながる起爆剤になると思う。まずは雪だるま物産館やNPO雪のふるさと安塚で試験的に始めてみて、徐々に広げていきながら、ゆくゆくは区内に5か所くらいの拠点をつくることで相互に連携が生まれ、地域の特産品等をアピールすることも可能になる。

3点目は月一祭りにも関係するが、小さな拠点である。高校生との意見交換においても、安塚区内にお店がなく、寂しいという意見が挙げられていた。小さな拠点というのは、喫茶店やお茶飲みの場のようなものであり、住民同士が交流したり、観光等の色々な情報を入手することもできるなど、気軽に立ち寄りやすい場所があるとよいのではないか。オープンガーデンのようなものがあったらよいと思う。

4点目はイベント実行委員会である。現在は各実行委員会等が単独でイベントを実施しており、情報発信が十分になされていない状況も見受けられる。イベント実行委員会を立ち上げて、全体を管理するとともに効果的な情報発信が行えるようになると思う。

5点目は観光看板設置である。意見交換会において、看板が少ないため、上沼道を通らずに安塚区へ来る人も多いという意見があったが、現状でも上沼道に関する看板は十分に整備されていると感じている。むしろイベント開催や施設をお知らせするような観光看板が不足しており、整備する必要があるのではないか。実現に向けたハードルは高いかもしれないが、今後検討を進めていきたい。

6点目は移動タクシーである。意見交換会において、移動手段がなく、集落内の行事に参加できない人もいるという意見があった。移動タクシーと言っても、特別変わったものではなく、近所の人の中で担当を決めて、行事の際に乗り合わせで移動するというようなものであり、行事の参加率も高まるのではないか。また、若者は忙しくて行事になかなか参加できない人も多いが、情報の発信力が高いため、ZOOM等のアプリを活用して離れたところからでも集落内の会議に参加できるようになるとよいのではないか。

7点目は特産品開発である。安塚区には魅力のある特産品も多いが、販売の強化や新たなものを開発できるとよいのではないか。意見交換会の中でもぜんまい等は魅力があるという意見も挙がっていた。

Cグループでは、アンケート結果や意見交換会の記録を分析し、実施すべき取組として以上の7点を挙げた。

Cグループで検討した内容について、何か質問等あるか。

(質問なし)

各グループで検討した内容を報告してもらったが、全体を通して何か質問等あるか。

【吉野誠一委員】

前回の地域協議会で協議した結果、世代ごとに必要となる取組を講じることによって人口減少率の鈍化を目指すという基本的な方針が出ていたと思うが、再度確認し、共有しておかないとなかなか前に進まないと思う。

リバーサイドロードの整備等が必要であるということは、共通の認識であると思うが、そのような具体的なことよりも、まずは世代ごとに必要となる取組を検討した方がよいと感じている。

【松苗正二会長】

吉野委員から、世代ごとに必要となる取組を検討すべきであるという意見があったが、このことについて意見等あるか。

【吉野誠一委員】

そのような方向性を前回決めたのではないか。

【松苗正二会長】

確かに18歳以下、19歳から64歳まで、65歳以上というような形で世代ごとに取組を考えるという意見もあったと思う。ただ、私としては、区全体で必要となる取組を絞ってから、詳細を詰めていく中で世代という視点も入れていけばよいと思っている。最初から世代ごとに考えると、焦点を絞りすぎてしまい、逆に行き詰まってしまうので

はないか。皆さんの意見はいかがか。

【池田裕夫委員】

私はBグループで検討したが、AグループやCグループの報告を聞いたところ、具体的な内容が色々出ていたように感じた。松苗会長が言われたとおり、区全体で必要なものもあると思うので、最初から世代ごとに考えなくてもよいかもしれない。今は3グループに分かれて検討しているが、全員で検討してもよいのではないか。

【池田康雄委員】

人口減少率の鈍化を目指すということであったが、そのためには独身世代や子育て世代に来てもらうしかないと思う。移住を促進しなければ、人口減少率を鈍化させることはできないのではないか。世代ごとにどうやって考えていったらよいのか分からない。

【新保良一委員】

世代ごとに考えていくのが一番基本的な進め方なのかもしれないが、結局のところ、働き世代にとっての課題は雇用の場についてであり、高齢世代にとっての課題は老後の生活についてではないか。せっかく各グループで話し合いをしたので、これからまた小委員会で検討を進めるとしても、各グループから2人ずつメンバーを選出し、検討した内容を詰めていくような方法をとった方がよいと思う。

【中村真二委員】

世代ごとに検討することについて、私は以前から反対しており、その考えは今も変わっていない。

【松苗正二会長】

色々意見をいただいたが、まずは吉野委員から提案のあった小委員会で検討を進めていくということについて、方向性を決定したい。小委員会で検討を進めた方がよいという意見が多ければ、そのように進めていきたいと思うが、よろしいか。

（「はい」の声多数）

それでは、小委員会のメンバーを6人程度選出し、まずは小委員会で検討を進めていくこととしたい。新保委員から、各グループ2人ずつ選出してはどうかという意見もあったが、これについてはいかがか。

【中村真二委員】

各グループ2人ずつというふうに決めないで、自由に6人選出した方がよいと思う。そこに縛られる意味はあまりないのではないか。

【新保良一委員】

せっかく各グループで一生懸命考えたので、2人ずつ選出して、その内容をいかしながら検討を進めていった方がよいと思う。

【吉野誠一委員】

私も中村委員と同意見であり、ここで一旦仕切り直しして、5、6人のメンバーを選出した方がよい気がする。

【松苗正二会長】

各グループ2名ずつ選出した方がよいという意見の方は挙手をお願いしたい。続いてグループ関係なく選出した方がよいという意見の方は挙手をお願いしたい。

(「グループ関係なく選出した方がよい」多数)

それでは、グループ関係なく選出することとしたい。小委員会のメンバーに立候補する方はいるか。

(立候補なし)

立候補する方はいないようであるが、どのようにメンバーを選出したらよいか。

【吉野誠一委員】

会長に指名していただきたい。

【松苗正二会長】

吉野委員から意見があったが、会長一任でよろしいか。

(「はい」の声多数)

それでは、石田副会長及び事務局と相談したうえでメンバーを決めさせていただく。

また、世代ごとに検討を進めていった方がよいとの意見があったが、このことについて、外立委員はいかがか。

【外立正剛委員】

各グループで検討した内容については、共通する部分もあれば、異なる部分もある。これを一旦仕切り直しして、小委員会で改めて検討するということか。

【松苗正二会長】

そうではない。各グループで検討した内容を踏まえ、小委員会で内容をさらに詰めていくことになると思う。

【外立正剛委員】

承知した。各グループで検討した内容の中にはよい意見もあるので、それをいかして検討をお願いしたい。

【松苗正二会長】

各グループで検討した内容が無駄になるということはないと思う。

【吉野誠一委員】

世代ごとに具体的な取組を検討するという点については、前回の地域協議会で皆さんの了解を得たはずである。Bグループでは、幼少世代に対して子育て支援や教育の充実をどのように実現するか、働き世代に対して企業の誘致や雇用の創出、地域の賑わい創出をどのように実現するか、高齢者世代に対して福祉の充実やコミュニティの再生をどのように実現するか、というような考え方で具体策を検討するという話し合いも行っている。

【松苗正二会長】

そのような考え方でよいと思う。

【中村真二委員】

Cグループで検討した内容は、アンケート結果や意見交換会の記録を分析したうえで検討を進めているので、これをたたき台にしてもよいと感じた。具体的な内容は小委員会で詰める必要があると思うが。

【松苗正二会長】

小委員会のメンバー決定後、さらに検討を進めていきたい。小委員会の日程についてはいかがか。

【吉野誠一委員】

会長から指名された6人で話し合い、小委員会の日程を決めればよいと思う。

【松苗正二会長】

近日中に石田副会長及び事務局で協議を行い、小委員会のメンバーを決めさせていただく。小委員会のメンバーとなった委員は、小委員会への出席をよろしく願いしたい。小委員会の日程は改めて調整させていただく。年内は難しいと思うので、1月中旬ぐらいの開催になると考えている。

【村松班長】

小委員会のメンバーはいつ選出する予定か。

【松苗正二会長】

速やかに選出したいと思う。小委員会の日程について、メンバー決定後に調整すると述べたが、1回目の日程は事前に決めていた方がよいと思うので、1月17日（火）に開催することとしてよろしいか。

(「はい」の声多数)

ほかに意見等あるか。

【外立正剛委員】

せっかく各グループで検討したので、検討した内容を文書にまとめていただきたい。

【松苗正二会長】

事務局の方でまとめてもらえるか。

【大島次長】

各グループから資料を提出いただき、それを基に事務局でまとめたいと思う。

【村松班長】

次回の地域協議会までにまとめるということによろしいか。

【外立正剛委員】

小委員会までにまとめてもらった方がよいのではないか。

【村松班長】

承知した。

【松苗正二会長】

ほかに意見等あるか。

【吉野誠一委員】

次回の地域協議会までに小委員会でたたき台となるものをまとめた方がよいと思うので、小委員会をもう少し早めに開催した方がよいのではないか。

【松苗正二会長】

吉野委員から提案があったので、1週前の1月10日(火)に小委員会を開催することとしてよろしいか。

(「はい」の声多数)

それでは、小委員会のメンバーになった方はよろしく願いしたい。

以上で本日の自主的審議事項についての協議を終了する。

続いて次第にはないが、「大・浦・安」地域協議会委員研修会について、協議をお願いしたい。前回の地域協議会において、研修会及び研修会後の情報交換会については、浦川原区の会場を借用して開催することに決定していたが、事務局から情報交換会の開催を予定していた会場が使用できなくなったとのお知らせがあった。情報交換会の開催について、意見のある方はいるか。

【山岸重正委員】

会場がないのであれば、中止するしかないと思う。

【松苗正二会長】

現状、3区の中で代替となる会場はないと思われる。

【外立正剛委員】

山岸委員の意見に賛成である。

【松苗正二会長】

情報交換会は中止するということによろしいか。

(「はい」の声多数)

それでは、情報交換会は中止とする。

【村松班長】

情報交換会が中止となったので、研修会は安塚区で開催することとしてよろしいか。

【松苗正二会長】

安塚区で開催をお願いしたい。

以上で「大・浦・安」地域協議会委員研修会についての協議を終了する。

次に次回の地域協議会の開催日を確認する。通常であれば、次回は1月24日(火)開催となるが、皆さんのご都合はいかがか。1月24日(火)開催でよろしいか。

(「はい」の声多数)

次回は1月24日(火)午後6時から開催する。

以上で議事は終了となるが、連絡事項はあるか。

【小林所長】

3区中学校統合実行委員会設置準備委員会の開催結果等について連絡。

【松苗正二会長】

会議の閉会を宣言

9 問合せ先

安塚区総合事務所総務・地域振興グループ TEL : 025-592-2003 (内線 23)

E-mail : yasuzuka-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。